授業の玉手箱

京畿英語村パジュキャンプにて

東條　加寿子

9 月、韓国の英語教育の現状を視察するために、学生と京畿英語村パジュキャンプ（以下、パジュ英語村とする）を訪ねた。すでによく知られているように、韓国では英語教育推進の担い手として 2004 年以来英語村が建設され、現在韓国内に約 30 の英語村がある。ほとんどの英語村の経営が半官半民、または民間に委ねられている中で、パジュ英語村は唯一、地方自治体（京畿道）によって運営されている。英語村のスタッフはすべて京畿道の公務員で、着任して数年目の現副理事長は道内で以前副市長を務めていた方とのことである。このため、パジュ英語村の運営は道内の教育行政と直結しており、道内の公立中学校の英語カリキュラムと直接的に関連づけられている。公立中学校の生徒は英語村研修を受けることが義務づけられており、私たちが訪問した際には、4 泊 5 日の日程で中学 2 年生約 300 人が来ていて、敷地内は活気に満ちていた。生徒達は、寮に滞在し、カフェテリアで食事をし、英語漬けの 5 日間を送る。（写真参照）

英語村は、生徒達にとってヴァーチャルな英語の世界である。正面入り口には、空港の入管さながらのゲートが設けられており、ここからはすべて英語。ゲートをくぐると英語の標識で示された街並みが広がる。そこでは、アメリカ、カナダ、南アフリカなど世界中から集まった英語ネイティブの先生たちが授業からエンタテイメントまでオールイングリッシュで対応する。英語を使った活動はゲームやドラマ、料理等バラエティに富み、病院や警察、旅行社といったヴァーチャルな施設での学習が英語を使った体験をリアルなものにしている。

パジュ英語村ではこういった中学生向けのプログラムの他に、大学生のための英語プログラムや英語教員のための研修も実施されており、これらのプログラムでは日本や中国といったアジア地域のみならず、ロシアからの参加もあるそうだ。

なぜこのような施設がつくられたのか。ここでどのような英語教育を目指しているのか。5 日間パジュ英語村に滞在して次のように感じた。

まず一つ目の特徴は、韓国にいながらにして英語の世界に浸ることのできる環境の創出である。日本では、「英語の授業は英語で」の取組みが進められているところであるが、韓国でも TETE（Teaching English through English）の取組みは早くから推進されている。しかし、韓国における英語村建設はその教室の枠を飛び出して「英語に浸る環境（Immersion Environment）」を創りだし、その環境のなかで生徒達に体験的に英語を使う機会を与えようとしている。二つ目に、多文化環境（multicultural environment）の追求である。このことは、異なる文化背景を持つネイティブ教員の雇用や海外からのプログラム参加者誘致によって英語村内に「多文化」を物理的に投入することによって実現されており、その環境の中で生徒達が多文化的体験をすることが可能になっている。これらの背景には、いうまでもなく韓国の学歴社会や留学熱があるが、英語教育推進の観点に絞って捉えても日本との間に発想の違いがあって興味深い。日本から英語研修・留学のために英語圏ではなく韓国英語村へ、との需要もあると聞く。隣国の英語教育事情に大いに考えさせられた。

書籍紹介

『新しい英語科授業の実践 - グローバル時代の人材育成をめざして』
石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）金星堂 2013 年　3,240 円
312 ページ

本書のまえがきによると、想定される読者は「英語科教育関係科目の担当者をはじめとして、英語科教職履修生、新任英語教員、小学校外国語（英語）活動担当教員」である。内容は三部より構成されており、各章が 15 ページ前後でコンパクトかつ分かりやすくまとめられている。

第一部の実践・展開編では、小・中・高で英語にかかわる教員の英語授業力の向上と強化にフォーカスして、各学校レベルの授業で注意すべきこと、授業の組み立てについても具体的な事例とともに詳細に説明されている。学習指導要領との連携を意識しながら授業を計画し実行していくヒントを多く含んでいる。

第二部の理論・指標編では、英語教育の理論を振り返り、それを基盤として実際の授業実践へどのようにつなげるか、学習指導要領との連携を意識しながら運営していくヒントを多く含んでいる。また、諸外国における小学校英語教育についても詳細なデータとともに紹介されており、「待ったなし」の状況で「小学校英語活動」に取り組む現場の教員、小学校英語教員志望の学生にも参考になると思われる。

最後の第三部、応用・発展編では、音声、文法、語彙指導について言語活動の例を含んでおり、特に、教育実習へ臨もうとする教員志望学生にとって有益であると思われる。実際に授業を運営していくうえでは授業の改善は欠かせないものであるが、その際に注意すべきこともチェックリストを使用しながら端的に述べられている。

本書の一番のフォーカスは終章の「成長し続ける英語教師をめざして」という表現に集約されているように思うが、その姿勢を育成、維持するためにも頼りになる一冊であろう。

（夫　明美）

編集後記 / 第 32・33 回勉強会案内

グローバル化には独立というアイデンティティも反作用として働くのだろうか。スコットランドの独立住民投票が 9 月 18 日に行われた。結果は、Scotland voted against ending its 307-year-old union with England and Wales, with the Scottish National party conceding defeat in the historic referendum. "The Better Together" ということなのだろう。ただ、このような重大なことを、16 歳以上の有権者が民主的な自己判断で決めたことには歴史的な意味があるだろう。

＊＊第 32 回勉強会「英語の教え方教室」＊＊
2014（平成26)年10月18日（土）14:00 ～ 17:00
「私の授業実践―英語を通じて世界を知ることをめざして」

滋賀県立米原高等学校の堀尾美央先生から、「英語を通じて世界を知る」という観点で、教科書外のことなどを授業で取り込んだりして、英語に興味を持たせる工夫や活動を紹介していただく。

＊＊第 33 回勉強会「英語の教え方教室」＊＊
2014（平成 26）年 11 月 22 日（土）14:00 ～ 17:00
「エクセター大学での研修で学んだこと」

奈良県立高取国際高等学校の松川慈先生に英国エクセター大学での研修報告をしていただき、英語授業での実践的な指導力の向上について話し合う。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center
540-0004　大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号
Tel: 06-6761- 9371　Fax: 06-6761-9373
Homepage http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp